湖風（うみかぜ）

NALC びわこ彦根・広報誌
第１０１号・平成２７年６月 10 日
彦根市後三条町１２５（安田武雄方）
電話＆FAX０７４９・２３・２５３７
編集・発行責任者・小林　　博

市販薬の副作用

1．市販薬の副作用の影響

薬の飲み残し（残薬）や副作用が大きな問題となっている。4 月に、消費者庁は、市販薬による副作用に注意をするよう呼びかけた。
2009 年から 5 年間の、市販薬による副作用が疑われる症例が合計 1225 例あると発表した。内訳は、総合感冒薬（風邪薬）が 400 例ともっとも多く、解熱鎮痛消炎剤 279 例、漢方製剤 134 例と続く。
うち死亡した 15 件では、総合感冒薬（風邪薬）が原因とみられるのが 8 件ともっとも多く、続いて解熱鎮痛消炎剤が 3 件、せき止め薬 2 件、漢方製剤が 1 件、その他が 1 件であった。
後遺症が残った 15 件でも風邪薬が 9 件と最も多かった。

２．どんな副作用があるの

市販薬には、使用上の注意を書いた説明書が付いている。複数の風邪薬の説明書を見ると「副作用の可能性」について触れている。
服用後に皮膚の発疹やかゆみ、吐き気、めまい、顔のほてりといった症状が現れる。
副作用のうち症状が重いのは、ステイーブンス・ジョンソン症候郡と呼ばれ高熱が出て皮膚が赤くなり視力が低下するものや、だるさや吐き気が続いて肝障害にいたるケースや、左目の視力をほとんど失うなどの深刻な後遺症が残るケースもある。

３．副作用後の対応は

消費者庁は、薬を服用して異常を感じたら、すぐに病院に行くよう呼びかけている。
また、説明書には、症状が現れたら、医師や薬剤師、薬の登録販売者に相談するよう促している。その前に、速やかに服用を止めることが先決だと思われる。　　（安田）

びわこ彦根広報板

〔４月の活動記録〕

時間外預託点数　６点　（１人）
奉仕活動点数　　３点　（３人）

〔運営委員会・月例会〕

実施　５月５日（火）ＰＭ１：３０～
予定　６月２日（火）ＰＭ１：３０～

〔３月度の経過報告〕

*サロン開催実績
おしゃべり３回１２名　パソコン０回
卓球４回１６名　読書３人８冊
チビッコサロン　２３組５８名

〔助け合い〕 ０件

〔福祉調査センターの活動〕

実施　４月０件
予定　５月１件

〔会員動向〕 松田貞夫さん（退会死亡）

〔連絡事項〕

・監査は、尾高寿美子さんに引き続きお願いします。
・地域包括支援サンター ハピネスから、介護支援専門員 4 名（西川、青木、雨森、広部さん）がナルクに来訪され今後の運営について協議をされました。
・彦根市福祉保健部医療福祉推進課の上林さんが、ナルクに来訪され宅老所申請の内容について質問を受けました。これで書類上に審査は終了したことになります。
なお、既に受領した 26 年度の補助金は、全額認められました。